

社会部 Twitter @gakupe
syakaibu@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3151 FAX:096-366-4012

学生のページ

| Friday

ものづくり支える人材育成を

創立120周年の記念イベントで、
マテリアル工学科の研究施設を
見学するOBら
＝熊本市中央区の熊本大

創立120周年を迎えた熊本大工学部（熊本市中央区黒髪）が3～4日、記念のイベントを開いた。教職員や学生のほか、国内外で活躍する卒業生ら約500人が集まり、「日本のものづくり」を支える人材育成の強化などを誓った。

熊本大工学部120周年

施設見学や被災者支援報告

1897年、旧制五高の工学部として設立。熊本高等工業学校や熊本工業専門学校などを経て、1949年の学制改革で熊本大工学部になった。これまでに3万数千人の卒業生を社会に送り出している。

宇佐川毅学部長はあいさつで「先輩が築いたキャンパスを次の世代に受け継ぐのが役目。海外留学する学生の支援などを強化し、国の礎を支える教育に努めたい」と強調した。

元学部長の岩井善太氏が記念講演し、熊本高等工業学校の初代校長を務めた中原淳蔵氏＝山鹿市出身＝の功績を紹介。「中原氏が赴任する前の五高工学部は無試験で入学でき、多数が中退していた。校舎整備や工作機械の導

入などを進め、現在の基礎を築いた」と述べた。

災害復旧支援を目的とした学部公認サークル「熊助組」副代表の山本菜月さん(22)＝社会環境工学科4年＝は、熊本地震の仮設住宅団地で足湯やハンドマッサージなどに取り組んだボランティア活動を報告。「大学で学んだことを生かす機会になった」と意義を語った。

学科ごとの講演会や研究施設の見学会も開催。軽く強度や耐熱性に優れたマグネシウム合金の開発を進めるマテリアル工学科は、約20人のOBを電子顕微鏡や加工装置がそろった施設に案内した。

安藤新二教授が「金属素材は炭素繊維などと比べてリサイクルの面で優れ



ており、大手航空機メーカーとの共同研究も進めている」などと解説。OBが素材の特徴などについて熱心に質問していた。

前身の採鉱冶金学科出身で、大阪府大阪狭山市の高島靖さん(83)＝上天草市出身＝は「自分たちが学生だった時代と比べ、研究設備が整って素晴らしい」とにっこり。マグネシウム合金について「軽量で強度もある材料。ぜひ普及してほしい」と期待した。

(山口尚久)



熊本地震でのボランティア活動などについて報告する山本菜月さん(左)。後方は宇佐川毅学部長＝熊本市中央区

社会部 Twitter @gakupe
syakaibu@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3151 FAX:096-366-4012

学生のページ

Friday | KUMA TOMO

ものづくり支える人材育成を

就活! 時事 サプリ

創立120周年の記念イベントで、
マテリアル工学科の研究施設を
見学するOBら
＝熊本市中央区の熊本大

◇日米首脳会談、北朝鮮へ圧力最大化を確認

安倍晋三首相は6日、トランプ米大統領と東京・元赤坂の迎賓館で会談し、核・ミサイル開発を強行する北朝鮮に政策を変えさせるため、圧力を最大限に高める方針を確認した。トランプ氏は共同記者会見で、日米間の貿易不均衡の是正や、米国製武器の購入拡大を要求。両首脳は、東・南シナ海など海洋進出を強める中国をにらみ、首相が新たに掲げる「自由で開かれたインド太平洋戦略」の実現に向けた協力の強化で一致した。トランプ氏は、近く判断を示す方針である北朝鮮のテロ支援国家再指定について、米政府内の検討状況を説明した。

◇「学費出世払い」で自民が素案まとめる

自民党の教育再生実行本部(本部長・馳浩元文部科学相)は6日、衆院選で訴えた教育無償化の一環として、大学など高等教育の授業料を一時的に国が肩代わりする「出世払い」制度の素案をまとめた。卒業後に一定の年収を超えた場合、収入に応じた金額を国に分割納付する仕組み。政府も導入を検討しており、後押しする狙いだ。党教育再生実行本部は近く制度化に向けた本格的な検討を岸田文雄政調会長に申し入れる予定だ。ただ、世帯の所得に関係なく補助されるため、財務省に否定的な意見が出ている。素案によると、対象は国立大学の年間授業料約54万円と入学金約28万円に相当する額。私立大学などで補助額を超える分は、無利子の奨学金を追加貸与することで対応する。

創立120周年を迎えた熊本大工学部(熊本市中央区黒髪)が3～4日、記念のイベントを開いた。教職員や学生のほか、国内外で活躍する卒業生ら約500人が集まり、「日本のものづくり」を支える人材育成の強化などを誓った。

熊本大工学部120周年

施設見学や被災者支援報告

1897年、旧制五高の工学部として設立。熊本高等工業学校や熊本工業専門学校などを経て、1949年の学制改革で熊本大工学部になった。これまでに3万数千人の卒業生を社会に送り出している。

宇佐川毅学部長はあいさつで「先輩が築いたキャンパスを次の世代に受け継ぐのが役目。海外留学する学生の支援などを強化し、国の礎を支える教育に努めたい」と強調した。

元学部長の岩井善太氏が記念講演し、熊本高等工業学校の初代校長を務めた中原淳蔵氏(山鹿市出身)の功績を紹介。「中原氏が赴任する前の五高工学部は無試験で入学でき、多数が中退していた。校舎整備や工作機械の導

入などを進め、現在の基礎を築いた」と述べた。

災害復旧支援を目的とした学部公認サークル「熊助組」副代表の山本菜月さん(22)＝社会環境工学科4年＝は、熊本地震の仮設住宅団地で足湯やハンドマッサージなどに取り組んだボランティア活動を報告。「大学で学んだことを生かす機会になった」と意義を語った。

学科ごとの講演会や研究施設の見学も開催。軽く強度や耐熱性に優れたマグネシウム合金の開発を進めるマテリアル工学科は、約20人のOBを電子顕微鏡や加工装置がそろった施設に案内した。

安藤新二教授が「金属素材は炭素繊維などと比べてリサイクルの面で優れ



ており、大手航空機メーカーとの共同研究も進めている」などと解説。OBが素材の特徴などについて熱心に質問していた。

前身の探鉱冶金学科出身で、大阪府大阪狭山市の高島靖さん(83)＝上天草市出身＝は「自分たちが学生だった時代と比べ、研究設備が整って素晴らしい」とにっこり。マグネシウム合金について「軽量で強度もある材料。ぜひ普及してほしい」と期待した。

(山口尚久)



熊本地震でのボランティア活動などについて報告する山本菜月さん(左)。後方は宇佐川毅学部長＝熊本市中央区

県内企業の採用担当者と大学の就職担当者が参加した情報交換会＝熊本市中央区



地元就職も選択肢に

県内企業と大学 情報交換会

大学生の地元就職を促進しようと、県内の企業と大学の情報交換会が2日、熊本市中央区のホテル熊本テルサであった。48社の採用担当者らと大学の就職担当者に約100人が参加。採用

book

「世代の痛み」(上野千鶴子、雨宮処凛著) 高度経済成長の果実を存分に享受した団塊世代の上野千鶴子と、就職氷河期が直撃し、40代を迎えた今も割を食いつける団塊ジュニア世代の雨宮処凛。人気の女性論客が幅広く語り合っ

「一遍 捨聖の思想」(桜井哲夫著) 一遍は鎌倉仏教の中でも異彩を放つ存在。大学教授にして時宗寺院の住職でもある著者が一遍の思想と浄土教の歴史を概説する。親鸞の思想が善悪の二元論を持っているとすれば、一遍は信も不信も身分差別もなく、た

編集後記

3人きょうだいの中で、弟が工学部を卒業し、化学メー